

入院後の退院支援のながれ

当院では住み慣れた地域で継続して生活でき、患者さんやご家族が安心して退院できるような支援を行います。

入院が決まった時から
退院支援が
必要となるかの把握

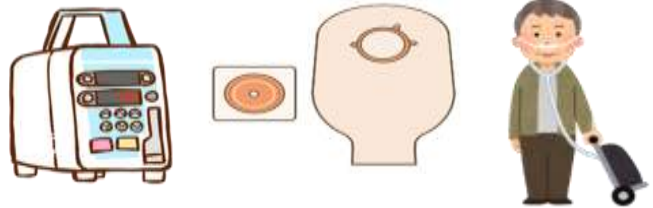
患者さんやご家族が退院後にどのように過ごしていきたいと考えているのか、生活のイメージができているのか、退院後の生活について、ご希望を伺います。

生活の場へ帰るための
チームアプローチ



病棟では、患者さんの退院に向けて医師、退院調整部門の看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多職種で話し合い、退院のために必要なことを検討します。

自宅でも医療処置(チューブからの栄養、人工肛門ケア、在宅酸素療法など)が必要な方には、管理方法について説明し、習得していただきます。



在宅療養に不安をもっている方や日常生活動作が変化し、住環境や在宅サービスの調整が必要な方には、退院前カンファレンスや退院前訪問・退院後訪問を行い、安心して自宅で過ごせるようサポートしています。

地域サービス・
社会資源との連携・調整

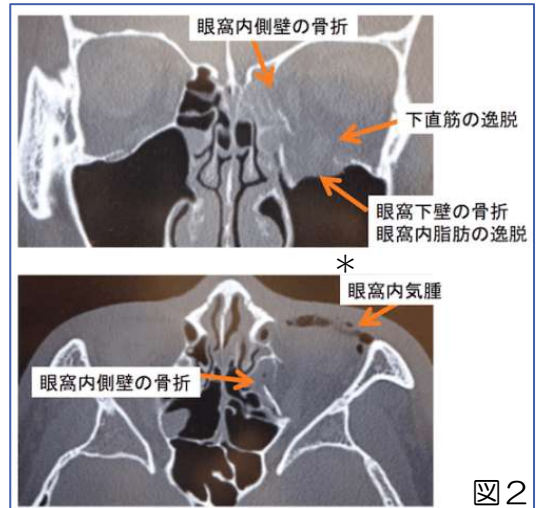
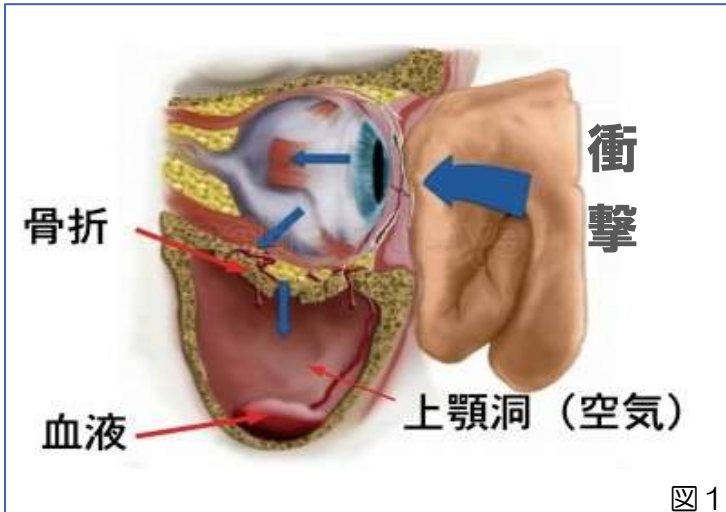
また、訪問診療や訪問看護の導入について調整も行っています。

安心して退院できるよう地域の関係者とも連携してチームで支援しています。いつでもご相談ください。



眼窩吹き抜け骨折（ブローアウト） がんか

スポーツや事故などで、眼部が前方から鈍的外傷を受けた（図 1）場合、眼窩（眼球周囲の骨のことです）の内側壁や下側壁の骨折を生じ、これを眼窩吹き抜け骨折（ブローアウト）と呼びます。



症状

- ① 眼球運動障害、複視（物が2重になって見える）
複視は特に上方又は下方を両目で見たときに多くみられる
- ② 眼球を動かした時に痛みがある
- ③ 眼球がへこむ
- ④ 鼻出血、*眼窩気腫（眼窩内に空気が入ってしまう）
- ⑤ 吐き気、嘔吐
- ⑥ 皮膚の知覚異常（ほほ、下まぶた、上嘴唇）



検査

- ① CT検査（図2）、MRI検査、単純レントゲン検査
- ② 両眼の動きが正常に行われているか、眼球の運動障害があるか、複視の状態、眼球のへこみ等について、検査機器を用いて調べる眼窩的検査

治療

保存的治療と手術治療があります。

複視がある場合、または保存的治療で改善がないときには早期に手術となります。

眼球陥凹の改善目的で手術を行う場合もあります。

担当科

眼科、形成外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科などで診察します。

☆当院は紹介予約制の医療機関のため、まずは、かかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。